

令和5年度 国立市立国立第八小学校 学校経営方針

1 学校経営の基本理念

教育基本法の理念を基底とし、東京都教育施策大綱及び国立市教育大綱により、本校の児童、地域の実態に即応しながら本校の教育の振興に努めるため、次の教育方針を定める。

- ① 児童をともに育てる視点で、学校・家庭・地域が連携し、知・徳・体の調和がとれた主体的に活躍する児童の育成を目指す。
- ② 教職員の指導力及び創造力を高め、チーム学校として質の高い教育を実践するとともに、保護者や地域の方々に信頼される学校づくりを目指す。

(1) 基本方針

基礎的・基本的な学習内容の充実を図り、地域社会に寄与する意識の醸成を図るとともに、国際理解・しょうがいしゃ理解を深め、社会の変化に自ら対応できる子供たちの育成を目指して、次の経営方針を定める。

(2) 学校経営方針

- 主体的に学び続ける力（確かな学力）、他者と協調・協力する力（豊かな人間性）、体力と運動能力を身に付ける力（健やかな身体）を育むことで、知・徳・体の調和のとれた児童を育てる。
- 人権尊重の精神に基づき、一人一人の児童のふれあいを深めるとともに、児童の可能性を信じて、個々の個性や能力を伸ばす。
- 1人1台端末及びデジタル教科書等を活かした特色ある教育活動を推進する。
- 家庭や地域との連携を密にし、ひらかれた学校をつくり、信頼に応える教育を行う。
- 教職員一人一人を尊重し、日々研鑽を積む中で、お互いに認め合い・学び合い・高め合う職員手段づくりに努める。

2 学校教育目標と身に付けさせたい資質・能力

学校教育目標	身に付けさせたい資質・能力
よく考える子 ⇒常に何が問題なのか、どのようにしたら改善できるかを考える	思考力・判断力・表現力、問題発見・解決力、情報活用力 ◇ 基礎的な知識や技能をより確かなものにし、習得した知識・技能を活用して、自ら考え、判断し、表現したり行動したりする力並びに様々な課題に積極的に対応し、解決する力を身に付けさせる。
共に生きる子（重点目標） ⇒手を携えながら自分たちを取り巻く環境や地域を守り・つくる	人間関係形成力、共生の心、思いやり、公共の精神 ◇ 他者と協調し、他者を思いやる心や感動する心、生命や人権を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心などを育む。
最後まであきらめずやり抜く子 ⇒自分の目指す姿に向かい、自分で考え、行動しようとする	実践力、粘り強さ、忍耐力 ◇ 自ら体力向上に取り組み、課題解決のための計画を立て、実行、修正し、粘り強く努力しようとする強い意志と実行力を育む。

- ◎ 学年・学級経営においては、学校教育目標や児童の実態に合った目標を設定し、日々の教育活動の中で児童が目標達成に向かって努力するような指導を目指す。

3 目指す学校像

- 1 基礎・基本の確実な定着により、確かな学力を身につける学校
- 2 児童・保護者・地域がとらもにつくる学校
- 3 社会性を培う学校
- 4 教師が学び、考える学校



「共に生きる子」の育成につながる
地域の拠点となるひらかれた学校

4 目指す児童像

- 基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、主体的に活用できる子 ⇒ よく考える子
- ◎ 他者を尊重し、認め合い、高め合い、励まし合える子 ⇒ 共に生きる子
- 何事にも諦めずに、目標をもって最後までがんばろうとする子 ⇒ 最後まであきらめずやり抜く子

5 目指す教師像

- ◇ 児童理解に努め、児童一人一人の個性や能力を伸ばせる教師
- ◇ 教師としての責任を自覚し、社会の変化に柔軟に対応できる教師
- ◇ 組織の一員として学校全体の調和を図り、協働する教師

6 教育委員会による指定事業

東京都体育健康教育推進校（令和4・5年度） 令和6年2月22日研究発表予定

7 教育目標を達成するための具体策

(1) 「よく考える子」の育成

- ① 補習時間の設定
3年生以上の児童を対象に、週に2回、給食準備の時間を利用して、算数の基礎・基本の定着を図る。
- ② 定着・確認の時間の設定
授業時間の中に設定し、学習内容の定着度を確認し、個の学びの充実を図る。
- ③ 1人1台端末及びデジタル教科書の活用
個別最適化された教育を提供し、資質・能力を一層確実に育成していく。
- ④ 考える体育の実現
体育を研究領域として、自ら課題を設定し、課題解決のために挑戦し続ける力を伸ばす。
授業研究を通して、児童の実態に合った運動能力、体力向上プランの作成を目指す。
- ⑤ 6年間を通した英語力の向上
モジュール時程を設定し、教育課程外の内容を含め、英語に触れ、慣れ親しむ環境をつくる。
デジタル教科書を活用しながら、小中連携・接続を意識した外国語活動の実践を目指す。

(2) 「共に生きる子」の育成

- ① 人権尊重教育の一層の推進
いじめを許さないという断固たる意思の下、道徳や特別活動を通して人権意識を高める。
いじめ防止基本方針及びいじめ対応基本手順を順守し、学校全体で組織的な対応を行う。
- ② 特別支援教育に関する理解授業の実施 … フルインクルーシブ教育の推進

さくら学級、はばたきの理解授業を実施し、各教科等の関連を踏まえた交流及び共同学習の充実を図る。

③ ユニバーサルデザインの学習環境と授業

どの児童も安心して居られる教室環境づくり、どの児童も分かる授業を実践する。

ミニマムスタンダードの統一、学習の構造化（授業のユニット化、動作化、作業化、一定化した授業の流れの確立等）を推進する。

④ Q-U調査の実施と活用

Q-Uを活用した魅力ある学校づくりに努め、データを活用した学級経営、生活指導及び授業づくり（居場所づくり、温かい学級づくり、安心感と満足感の高い学級づくり）を行う。

⑤ しょうがいしゃ理解教育の推進

オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、共生社会の実現に向け、全ての人々が自己実現を目指すことができる社会の実現を考えられる取組を推進する。

(3) 「最後まであきらめずやりぬく子」の育成

① 継続したコーディネーショントレーニングの実施

体力・運動能力調査の結果を踏まえ、コーディネーショントレーニングへの継続的な取組を行い、体力向上、運動能力向上のベースづくりをする。

② 「なすことによって学ぶ」の趣旨に沿った豊かな体験活動の充実

キャリア教育の視点から、体験活動を通して繋ぐ力、繋げていく力、繋がる力を醸成する。

令和5年度豊かな心を育む体験活動の充実事業（仮称）の実施

③ よさや可能性を伸ばす学校行事の充実

児童が「自分たちでつくる学校行事」として、活動に取り組むために、児童の参画の場を増やし、すべての児童に活躍の場を与える。

④ G R I T※を伸ばすための取組

特別活動やプログラミング教育を通して、自ら試行錯誤を繰り返し、挑戦し続ける姿勢をもたせる。

目標に向かって、日常の小さな積み重ねを大切に、トライ&エラーから学び続けられるように働きかける。

※ Guts（度胸）…困難なことに立ち向かう力 Resilience（復元力）…失敗しても諦めずに続ける力 Initiative（自発性）…自分で目標を決める力 Tenacity（執念）…最後までやり遂げる力

◆ 全ての教育活動において、「めあて」「課題（問題）」「考え方」「まとめ・振り返り」の流れを意識し、特に、振り返り（リフレクション・省察）の時間を大切にする。